

杉林を有効活用
コシアブラ栽培

阿賀町・山口 庫幸さん

【阿賀】阿賀町八ツ田で農業法人を経営する山口庫幸さん(69)は、自宅近くの

杉林を利用して、管理栽培が困難であるといわれているコシアブラの栽培に取り組んでいる。2011年に始めて、現在約300本の栽培に成功した。

「都市部ではタラの芽よりも人気があります」と山口さん。コシアブラの新芽は山菜として珍重され、天ぷらや和え物にしたり、チャーハンや炊き込みご飯に混ぜたりして、食べられている。

山口さんは、所有する約10畝の山林を歩き回り、コシアブラが自生する場所を観察。半日陰で水はげがよく、気温があまり上がらな



コシアブラの生育を見守る山口さん

収穫まであとわずか



い場所が育ちやすいことが分かった。

自宅近くのスギ林もこの条件と同じ環境だったため、所有している山林からコシアブラの苗を採取してポットに移植し、根付くまで育てた。

定植後、小さい苗は育つまで4〜5年かかるが、成木に育ってしまえば、山で採るよりも安定して収穫ができるため、事業化の道が開けると考えており、杉林の荒廃防止にもつながるといふ。「近年、富山大学などでコシアブラに抗ウイルス作用があることが確認されており、機能的作物としても有望です。次世代にぜひ、コシアブラ事業を受け継いでほしいです」と抱負を話す。(石田真之介)